



hida

広 報

ひだ

町 木



第28号

肥 田 町
郷づくり委員会
H15. 1. 1 発行

謹賀新年

自治会長 伊 関 徹 男



明けましておめでとうございます。
輝かしい初春をご家族お揃いでお迎
えのことと謹んでお慶び申し上げます。
旧年中は自治会活動につきまして格
別のご理解とご協力を賜り有難うござ
いました。厚く御礼申し上げます。

世界の平和と安定した生活を願いつ
つ新しい二〇〇三年の幕が開けました。

昨年はイラクにおける非人道的な大
量破壊兵器の廃絶に道筋をつける中心
的な議題や、日朝国交正常化に伴う拉致
問題、工作船事件など世界情勢も不安定
さを増し私達を取り巻く社会情勢も身
近に厳しさを感じる様になって参りま
した。即ち構造改革の風の中で企業の倒
産、リストラ、最悪の失業率と厳しい環
境が続く、後半には景気回復の期待もさ
れているものの世界同時デフレの懸念
されるところでは、まだまだ今日のよう
な厳しさが続くものと思われま。

しかしながら私たちは、このような状
況の中にあっても、今年こそは、今年こ
そと明るい明日への希望の実現に町民
皆様と手を取り合って一緒に強く一歩
一歩進んで参りたいと思います。お陰様
で昨年、町民皆様のご協力を得て福祉の
まちづくりへのボランティアサークル
の発足をみました。また先人たちの残し
てくれた歴史ある肥田の誇りを大切に、
皆の住み良い町を更に目指しています。

加えて明日の農業を取り巻く環境は一
段と厳しいものがありますが、前向きに
とらえて需要動向に対応した米づくり
の促進や、地域の特色を活かした特産物
づくりも視野に入れ、農産物の振興に努
めると共に、その多様な担い手が共存出
来る生産性の高い営農体制づくりの促
進や、地域環境にやさしい環境保全型農
業の推進にも取り組まなければならな
いと思います。農業対策委員会も三年目
を迎えております。今日の肥田の町づく
り、農村としての景観も大きく変わろう
としています。過去数年前までは、宇曾
川堤防両岸が竹藪つづきで雨が降ると
堤防の決壊が頻繁に起こり、周辺の田園
が水浸しになる大変な時代もありまし
たが、今や宇曾川の改修もされ両岸には
桜並木で宇曾川ロマン遊歩道もついて
立派になり眺めも良くなりました。

このように時代の趨勢を読み込んだ
対応を心掛けていくことが大切と思い
ます。今日の皆様とともに取組んでおり
ます土地改良の課題につきましても、対
策委員長を中心に鋭意協議を重ねて参
りますので皆様の絶大なご支援ご協
力をよろしくお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、平成15年、皆
様にとりまして誠に良い年であります
ようご祈念申し上げ年頭のご挨拶とい
たします。

おめでとう
ございます。
益々のご発展を
お祈り申します。
平成15年元旦

成人 昭和57年生

森田華奈子

藤野 明美

清水 洋徳

成宮 恵美

還暦 昭和18年生

藤野 節子

大村 嘉孝

薩摩 四郎

鶴野 栄美子

岩尾 義治

大村 国子

古稀 昭和9年生

薩摩 幸男

鶴野 喜八

成宮 ハツ

伊関 照子

薩摩 茂和

青木 不二江

喜寿 昭和2年生

藤野 吉子

西田 勘藏

辻野 弘

鶴野 忠三

傘寿 大正13年生

筒井 和吉

成宮 伊蔵

鶴野 義子

吉岡 行雄

大村 捨三

(順不同 敬称略)



平成15年 成人の日 を迎え



藤野 明美さん

新年、明けましておめでとうございます。
私は、現在看護学校に通っています。将来は
看護師になろうと思っています。高齢化社会である今日、
お年寄りを大切にとの思いやりと、知識、確かなる技術を持っ
て、行き届いた看護に努めたいと思います。



清水 洋徳さん

大人の一員となる自分にとって、自分自身の生活
環境が大きく転換する時期が来たと思っている。
今日までは何事にも甘えが許され、自由な気分であったが、今
後は責任を感じ充実した毎日を送りたい。



成宮 恵美さん

皆様、明けましておめでとうございます。
20歳を迎え、大人であることをしっかりと自覚し
ていきたいです。子どもが大好きなので将来は幼稚園の先生にな
りたいと思っています。夢を叶えられるように頑張っていきます。



森田華奈子さん

あけましておめでとうございます。
昨年の九月、二十歳になりました。振り返ってみ
ると長いようで短い歳月でした。
楽しいこと、苦しいこといろいろありましたが、家族や親戚、町内
の皆様の温かい励ましで今日の日を迎えることができてとても
感謝しています。これからどうぞよろしくお願い致します。

あけましておめでとうございます

皆様の益々のご健勝ご多幸を祈念申し上げます
平和な世の中を後生に伝えたい
過去の戦争を体験した者にとって
いま、戦争を視野にいれたような
国内外の動きは、絶対に許すことが
できません。私たちのくらしや、
子や孫の幸せを守るために。

福寿会会長 高瀬俊英



新年明けまして
おめでとうございます。

日頃は、こども会活動に格別のご支援
ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。
次の時代を担う子どもたちが、たくま
しく元気に育つためには、家庭や地域の
教育力が一層重要になってきます。
今年も、皆様のご支援の程、よろしくお
願い申し上げます。

子ども会会長 青木 洋



明けまして
おめでとうございます

昨年には、幼児の交通安全教室で県から知事賞という
栄えある賞をいただきました。これも日頃の皆様のご理
解ご協力のお陰と感謝申し上げます。本年もよろしく
新年に当り、町民皆様の一層のご健勝とご多幸を心か
らお祈り申し上げます。



カンガルークラブ会長
元持弘恵

第一回 和み会の集い

ボランティアサークル「ひだまり」



12月8日肥田町ボランティアサー
クル「ひだまり」では、今回は、主と
して女性委員の方々の企画と手づ
くりのお料理で85歳以上の町の高
齢者の人々をお迎えして元気の交
歓の場をつくる第一回の和み会が
公民館で開かれました。

ご参加の皆さんは明治、大正、昭
和の激動の時代に肥田町を守り続
け、発展に力を合わせた人ばかり、
その心意気は今も脈脈と、お互いに
積もる話の交歓に本当に温かい賑
やかな時間を楽しんでいただきました
また大先輩の方から、近年に

〈緑 風〉

寅さんの思い出
伊 関 正 義

あの太平洋戦争も間近の昭和15
年か16年、私がまだ小学生のころの
話である。

勿論その頃の世の中は、人々は厳
しい物不足で地味な生活に明け暮
れていたが、そんな中で夏ともなれ
ばカンカン帽に、筋目のついた真っ
白い長ズボン姿で自転車に乗るお
じさんがいた。

肥田の人たちの目をひいたこのシャ
レ男の名は吉岡寅次郎さん。村内で
は青果商を営んでおり、親切でまじ
め、穏やかなお人柄は皆さんから「寅
さん」、「寅さん」と親しまれていた。

寅さんは、私の父親新兵衛とは肥
田の町で唯一の小学校友達で、始終
私の実家に来ては祖母や父親と火

鉢を囲んで話し込んでいたし、今の
大阪の私の家にも泊りがけで訪ね
て来て深更まで昔話をしてくれた
嬉しい思い出は忘れられません。ま
た寅さんは大変な達筆家で、父の葬
儀には何かとお世話になっていた。
さて話を本題に戻し、60年前のあ
る夏の日、わが家のスイカ畑に泥棒
が入っているのを村人が知らせて
くれた。しかし当時の戦時下の駐在
所は中々近寄り難く、通報しようと
言う人は誰もいなかった。そこで一
計を案じた村人（成宮伊三郎さん）
は、巡査の白い制服姿によく似た寅
さんを警官役に仕立てることを考
えた。計画は間髪を入れず実行され、
馳せ参じた寅さんは、やや距離をお
いて「コラー、お前なにやとるか、
交番へ来い」と大声を発するや、てっ
きり本物の巡査と思ひ込んだ泥棒
クンは一目散に逃げ去った。まんま
と奇策が功を奏し皆で会心の大笑
いし、姉の差し出した冷たい砂糖水
をみんなが美味しそうに飲みまし
た次第。

時は流れて、今は21世紀に、肥田
の町を離れて50年になるが折りに
ふれ昔を偲び、ふるさとを懐かしみ
感傷にひたる齢になった。



は肥田町自治会が他町に先駆けて
町民に介護講座の開催など福祉の
心づくりに努め、そして今回のボラ
ンティアによる和みの会と、老人に
とっても「安心して住まえる町」と

嬉しく、これからも若い人々に支え
合いの気持ちの普及に頑張つて欲
しいとの我々への激励もいただきま
した。また昔の肥田を振り返り見て、
城下町肥田であったゆえに毎年正
月に訪れる神楽も1月4日が守ら
れて特に手厚かったことや、肥田の
若い衆の意気も盛んで町の存在感
が高められていたこと、肥田街道な
どと懐かしいお話が広がりました。
会場では、女性委員の方々が朝早
くから力を合わせ、工夫を重ねて作
られたご馳走を囲み、昔懐かしい歌
の数々の合唱やゲーム、ビデオなど
と時間も忘れる温かムードの会場
風景でした。

今回は春、桜の季節にと予定も決
まりました。お誘い合わせいただき、
より多くの方の元気なご参加をお
待ちしています。

「おふくろの笑」 新年号

「健やかに育つ子たちを願って」

ある日私の目に

とまったこと

おふくろGさん

ある暑い日の
彦根駅での出会
いでした。若い
お母さんが、赤
ちゃんをしっか
りと胸に抱きし
め、二人からは玉の汗が流れ、三、
四歳位のお兄ちゃんの手もしっ
かりと握って入って来られた姿
を目にとめ、私はハッと思わず
立ち止まり、その姿に心を打た
れたのでした。と申しますのは、
私どものその頃と異なり、今の
時代では余り目に留らないこの
光景、親子のスキンシップ、一分
一秒でもしっかりと子どもを抱
きしめる当り前の行為が今、改
めて何より大切なことであり、
必要なことだと感じたのでした。

昔から諺に、「三つ子の魂百ま
で」と言われていますが、赤ん坊
のころより、身近に肌を通して
の親の温もりを与えて、心の通
い合った対話を重ね、日常で事
の善し悪しを分かっていくこと
とが大切なことではないでしょ
うか。少子化の今日、かけがえの
ない子どもたちが、いつも温か
い心の持ち主となり、真っ直ぐ
に育ってくれるためにも、その
幼児期での親の真剣なスキンシ
ップの伝わりこそ一番求められ
るのだと思います。そして明
るく健やかに成長してくれる子
どもたちによって生きがいのある
社会が創られることを心から
願っているこのごろの私です。